

ひがし しらかわ 広報

No. 186

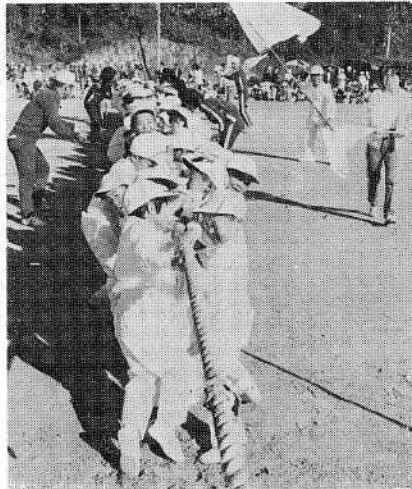
'50 11 / 20

人口の動き

人口	3,990人
世帯	961世帯
出生	5人
死亡	3人
転入	11人
転出	10人

— 9月末住民登録人口から

■ 発行 / 岐阜県加茂郡東白川村 ■ 編集 / 企画広報課 ■ 印刷 / 関市中部印刷

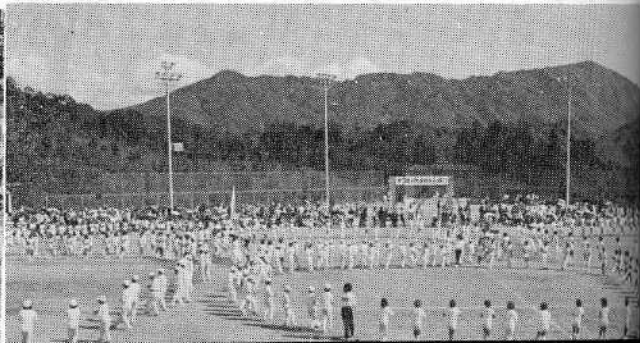
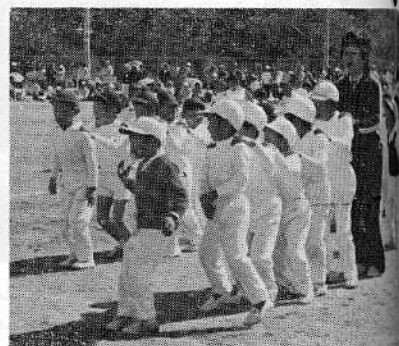
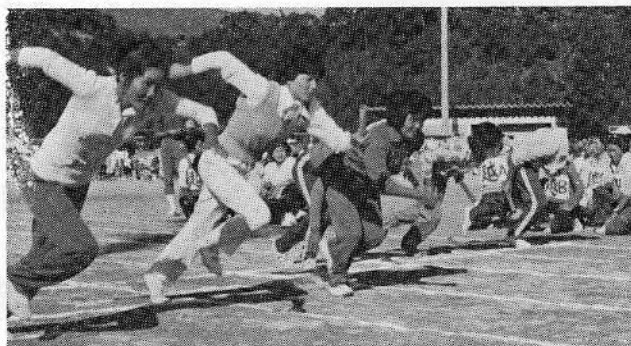


思い出の ひとこま

楽しかった村民運動会のスナップです。

家族そろって、こだつを囲み
思い出のひとこまを語り合いま
しょう。

一関連記事は9ページに



お帰りなさい宏子さん

中国から三十二年ぶりの里帰り

「お姉さん、お帰りなさい」三十二年ぶりの姉弟感激の対面が、この十月十四日、大阪空港のロビーで涙の中に実現しました。対面の主は、神戸平の安江和生さん（41歳）と、中国で終戦直後行方不明になっていた安江宏子さん（46歳）です。

宏子さんの生存は、昨年の終わり確認され（詳細は広報一七七号で紹介）、その後の文通も開始され連絡がとれるようになってきました。

そして、一刻も早い里帰りをとの姉弟の願いを実現するため、村や関係機関の努力が実って、日中両国の外務省を通じて一時帰国制度の恩恵で、今回の里帰りとなりました。

宏子さんが空路、北京から大阪に着くという第一報が入ったのが前日の十三日、村では早速和生さん

んや親せきのかた、同級生のかたたち十数名に連絡、翌十四日早朝マイクロバスで大阪空港まで出迎えました。

正午過ぎ、中華民航の飛行機が着陸、歓迎デッキで待ちわびる人たちに、娘さんの雪ちゃん（12歳）を連れた宏子さんの姿がとらえられました。

一刻も早い対面を待つ人にとつて非常に長く感じた税関での手続きを終えてロビーに姿を現わした宏子さんと雪ちゃん、後は言葉にはならない涙、涙の対面となりました。

空港から一路東白川へ向かったバスが、役場の前に着いたのはもう暗くなった午後七時半、そこには三十二年ぶりに故郷の土を踏む宏子さんを、約百名の村の人たちが出迎えられ、温い言葉で労をねぎらう人、拍手を送る人、宏子さんにとって忘れられない第一歩となったようです。

夢にまで見た弟の和生さんの家に落ち付かれたのは午後八時過ぎ語り尽くせぬ三十余年の思い出話は明け方まで続いたそうです。

長い間、日本語を話したことがないといわれた宏子さんでしたが

↑お帰りなさい。姉弟三十年ぶりの再会です。―空港ロビーで



びっくりするほど違者で発音も正確、日本語の解らない雪ちゃんの通訳はむろん、後日には郡内他町村で里帰りされた日本語の話せないかたの通訳まで引き受けられたほどでした。

宏子さんは、約六カ月間滞在される予定です。

村では、さる十月二十五日に関係者がおじゃまして、終戦時から今日までのお話を伺いましたので以下本号で特集しました。

当時、異郷で終戦という想像もつかない現実を受けとめた人たちの苦勞、きびしかった当時の生活



―役場で村長と語る宏子さんと雪ちゃん

は、体験者ばかりではなく、現代に生きるすべての人々にとって身につまされる何かがあるようです

けいじはん



■人の動きあれこれ

誕生おめでとう
こいいます。

（九月）

- | | |
|------------|-----|
| （陰地）安江 明夫 | 智恵子 |
| （上親田）山口 貞美 | 三女 |
| （平）山口 喜久代 | 孝行 |
| （平）山口 和久 | 孝一郎 |
| （平）栗本 保彦 | 昌子 |
| （陰地）安江 正孝 | あかね |
| （平）栗本 房子 | 長女 |
| 熊崎 述一（下野） | 長女 |



おくやみ
申しあげます

■教育功労者として金子校長と早瀬教諭が表彰さる

さる十一月十五日に開かれた岐阜県教育功労者表彰式において、永年教育に尽された人に対して表彰が行われました。

その席上、教育公務員三十年以上勤続表彰に五加小学校の金子美良校長と神戸小学校の早瀬つた江教諭が表彰されました。



話を聞いた人

助 役

(宏子さんの同級生)

教育長

田口 博

病院局長

村雲 康彦

民生課長

桂川 直衛

(里帰り事務担当課)

企画広報課長 安江 公平

(座談会の司会)

企画広報係長 田口 芳宏

(取材とまとめ)

座

談 会

宏子さんを囲んで

私の自慢は主人と子供

思い出すと辛い終戦のころ

飢えと病気で
多くの人が死ぬ

― 悲惨だった収容所

企画広報課長 お疲れのところお
じやまして申しわけありません。

きょうは、役場の関係者が集り
宏子さんの終戦当時のことから三
十余年にわたる中国での生活など
について、お聞きしたいと思いま
すのでご協力下さい。

また村の人たちも、そうしたお
話をお聞きしたいと願っています
ので、きょうお聞きしたあらまし
を広報紙で紹介したいと考えてい
ますのでよろしくお願いします。
宏子さん うまくまとめて話すこ
とはできませんが、三十年間の
きことや生活について判っている
だけお話しします。

企画広報課長 まず最初に終戦当
時、家族と離ればなれになった時
のことについて話して下さい。



企画広報課長

宏子さん 私たちの両親は、昭和
十八年に渡満し東柳毛溝開拓団員
として生活していました。昭和二
十年の一月から通北県公署に就職
し七ヵ月働きました。

八月十五日終戦となり、多くの
日本人たちとともに南下し帰国す
るため、通北駅に集ったのです。
しかし、それと同時にソ連軍が
侵入してきて日本人全員が足止め
され、汽車に乗ることができませ
んでした。
やむをえず、駅の近くにある小
学校の校舎で生活し、実験農場か
ら貰うわずかな粟などを食料にし
ていました。

助役 その当時、本村出身者はほ



安江宏子さん

かにもいましたか。
宏子さん 五加出身の報国農場の
人だったと思われる人がいっしょ
にいたようです。

そして、ソ連軍の許可がでて貨
物列車に乗って出発しましたが、
窓のない貨車でしたので途中の駅
で気がついたら方向違いのジャム
スの駅でした。

あわてて降り、次の汽車に乗れ
るまで三日間も家族とともに、冷
たいコンクリート張りの駅で寝ま
した。

そしてハルビンまで引き返した
のですが、汽車は一つ手前の駅ま
でしか行けず、そこからハルビン
の武蔵屋旅館まで遠い線路を歩き

■元江神土小学校長の安正男さ
んがピアノを寄付

この春、神土小学校長を最後
に永年学校教育のために尽くさ
れた、越原日向の安江正男さん
がさる八月神土小学校へピアノ
を一台寄付されました。

十月二十八日のデンマーク体
操の公演が弾き初めとなりました。

■年金を担保に小口融資が受け
られます

一 貸し付けを受けることがで
きる人

国民年金(福祉年金を除き
ます)、厚生年金保険、船員
保険の受給者

二 貸し付けの利率
年八割

三 受付時期と貸し付け日

(受付) 昭和五十一年二月
二日から二月十四日まで

(貸し付け日) 昭和五十一年
三月二十七日

貸し付け金は本人指定口座
に振り込まれます。

四 貸し付け金の額

貸し付け金の額は次のとお
りで、貸し付け金の金額につ
いて償還されるまでの間にお
ける追加貸し付けは行われな
い。支払年金額(厚生年金基
金及び厚生年金基金連合会か
ら支給される額を除く)の一
年半相当額以内の額で十万円
以上七十万円までの額。

多くの人が疲労と食物もなく倒れて行ったことは、今でも忘れることができません。

教育長 当時も、その武蔵屋旅館は、旅館として営業していたのですか。

宏子さん 旅館としてではなく、家のない引き揚げ途上の日本人の収容所となり、多くの人でいっぱいでした。

もちろん、食料や医薬品もなくわずかな貯えと自分で稼ぐよりほかありませんでした。

そんな施設とわずかな食料で生きていくだけの状態で、はっしんチフスなどが流行し、家族で私が一番先にかかりました。さいわい私は、わずかな貯えのおかげで注射ができ早く治ったものの、その後家族にも移り、特に母親は寝たきりとなってしまいました。もう貯えもなく注射はおろか、弟や妹を含めての食料さえ手に入らなくなっていました。

仕方がないので、私が中国人の家へ働きに出ました。仕事は子守りで、私は三食食べさせて貰いましたが、家族が食べるものもなく悪いと知っていたながら、中国人の家から靴や靴下にわずかな米を入れて持ち帰り、おかゆを作って食べさせました。

また、収容所では毎日何十人というたくさんの方が病気で栄養失調で死んでいきました。

辛かった家族との別れ

— 李さんとの結婚

民生課長 当時の苦しかった実情はよくわかりましたが、宏子さんが中国人の世話になることになった状況を聞かせて下さい。



民生課長

宏子さん そんなうちにいよいよ生活に困り、その年の十一月の末だったと思いますが、たった一枚のオーバーを売りに出た父が、帰りにそのわずかなお金までとられてしまい、父からこのままでは全部死んでしまう、お前は中国人の世話になれといわれ、辛かったが多くの家族のことを考え承知したのです。

そして、同じ旅館にいた九州出身の「はた」さんという人が紹介してくれた李さん（今の主人）の家に世話になりました。その時、李さんは両親や弟、妹の生活費として四百円を出してくれました。四百円あれば両親・弟・妹たちの病氣も治り、そして食べ物も買えると思つたのです。でも、今度日本へ帰って和生か

ら聞くと、そのお金は家族には渡されていなかったのです……。

局長 私たちは、宏子さんは収容所から行方不明となったと聞いていましたが、あなたが結婚されたことは弟や妹は知らなかったのです。そして、ご両親の亡くなられたこともご存知なかったのです。

宏子さん そうです。私は両親の助けになれば、そしてその四百円があれば、きっと皆日本へ帰れるだろうと思ひました。でも……もしそのお金が家族へ渡らなければ、全部死んでしまうだろうとも思ひました。

収容所を出る時、和生たちとは別れることが辛かったから、お使いに出来るといつてきてしまったので何も知らなかったでしょう。

民生課長 当時、結婚されたご主

質素ながら節度ある生活

— 主人は食堂、私は農業

助役 今度の里帰りのきつかけとなった、宏子さんの消息を知らせて下さった谷さん（滋賀県出身）



助役

人、李さんはどんな仕事をなさっていましたか。また、その後の生活などはどうでしたか。

宏子さん 主人は、ある宗教の布教師で、主人も家の人も親切でソ連軍から私をかくまってくれました。もちろん家の外へは一步も出ません。約三か月ほど屋根裏にひそんでいました。

それ以後、ソ連軍が去ってから十年ぐらゐの間各地を転々とし、現在住んでいるところへは昭和三十年に入りました。

結婚後四年目に最初の子供が生まれ、今では六人の子持ちで幸せな毎日を過ごしています。

今、宗教はいつさい禁止されていますが宗教の関係で主人が豚肉を食べないので、私も三十年間食べないで元氣ですよ。

この十月末に死亡との出会いのようすを聞かせて下さい。

宏子さん 昭和二十八年だったと思います。当時私たちは北朝鮮の国境に近い図們という町で小さな家を借りて食料品などを販売していたとき、近くで食堂を経営していた谷さんと親しくしていました。谷さんから、今度日本へ帰れることになったから、いっしょに帰るようにと奨められました。

ちょうどその頃、北鮮から来た人が一時預けていった荷物の中に阿片が隠されていたことが発覚し主人は何も関係しておりません

五 償還方法

償還は、年金の支払金をもつて充てる。社会保険庁業務課あるいは、社会保険事務所が本人に支払うべき年金を直接年金福祉事業団へ振り込む予定。

六 取扱い機関

都市銀行、地方銀行、相互銀行、信託銀行及び、信用金庫のうち年金福祉事業団から年金担保貸し付け業務の委託を受けた店舗。

■重度障害者に福祉年金を支給
この十月から重度障害者に福祉手当が支給されるようになりました。

これは、福祉対策の一環として重度の障害者に対して日ごろの負担を軽減するための一助として、福祉手当制度が創設されたものです。

この制度は、国、県が費用を分担し、精神または身体に重度の障害があるため、日常生活において常に介護を必要とする障害者本人に支給し、これらのかたの生活向上を図るために生まれたといえます。

福祉手当の額は、一人について月額四千円で、支給を受けるかたの年齢には制限がありませんが、次の要件が必要です。

一 一定の所得以下であるとき（生計を、持する者が障害者本人で扶養親族が五人の場合、は、百六十四万二千五百円、

したが、公安局に連行されたまま不在のときでした。

しかし私は、日本へ帰っても、両親や弟、妹たちも生きているとは思えず、親切な主人や子供のことを考えてお断りしました。

両親や弟、妹もハルビンで死んでいると思ったので、私も中国で



病 院 局 長

骨を埋めようと決心しました。また戦争に敗れた日本へ多くの人々が引き揚げ生活はきつと苦しいだろうとも思いました。

企画広報課長 それでは、宏子さんの現在の仕事、あるいは一日の生活などについて話して下さい。宏子さん 主人は食堂、私は農業に勤めています。

農業は会社組織になっていて、働いただけ月給を貰う仕組みになっています。そして、生活用品のほとんどは配給制で極力むだを省くようになっています。

主食は、とうもろこし・粟・こうるやなどです。米は月に二合くらい、それに馬鈴薯や白菜・なす・きうりそれに漬物などもよく食べます。

朝は七時までに家族全員で朝食をすまし、七時から十一時まで仕

事、十一時から十二時までが昼食で主人を除いて、子供まで家へ食べに戻ります。

午後は十二時から四時までが仕事、それから一・二時間は会社の責任者を中心に新聞や本の朗読などの勉強会を行ってから家へ帰ります。

学校は、一日のうち半分が農業実習で、午前と午後の交替制となっています。

教育長 私たちの居た開拓団の家は、泥で作ったレンガ造りで、暖房はオンドルを使っていたんですが、今でも変わっていませんか。

宏子さん ほとんど変わっていませんが、最近是非常にきれいになりました。寒いところですのでオンドルは欠かせません。燃料はほとんど石炭を利用しています。

【オンドル】中国地方の独特な暖房施設で、調理場や風呂のかまどから煙突を床下に埋め、部屋全体を暖めるもの。

助役 中国での社会保障や病気がなったときのこと、そして結婚などについて話していただませんか。

宏子さん 年金制度は地域によって変わるようですが、終身年金もあります。

病気の治療には、最近「ハリ」が普及していますし、重くなっても長期療養が必要のような場合、また、体が弱く生活が苦しいような場合、みんなで協議して組織ごとに救済するようになっていきます。

結婚や恋愛関係も自由ですが、三年ほど前から、男女とも二十七八歳以上にならないければ結婚できないことになりました。また、子供は三人までです。

昔の、金で売買するような風習は全くありませんね。結婚や葬儀なども節約のため、酒や料理を出したり、特別なことをすることはいいです。

局長 当時の開拓団の跡はどうなっていますか。また、現地に日本人入らしき人は住んでいませんか。

宏子さん 開拓団の跡はそれぞれ農業集団（会社）が入り、トラクターなどの機械化によって、周囲もほとんど耕地になってしまっています。

今では、屋根の材料にする草を刈る場所がなくて困るくらいです。現地での日本人は私だけですが幼少時に中国人に買われたり、拾



教 育 長

われたりした子供は、中国人の子供として育てられたので、そうした日本人は多く居ると思います。しかし、今は中国人の家庭に日本人が居れば証明書も発行してあり、日本人を大事にしてくれていますから、ほとんど判っているはず

ですがね。

教育長 中国での三十余年間、いろいろなことで苦労されたこと、そして良かったと思われることをお聞かせ下さい。

宏子さん 中国人の家庭に入ってから二年間は、ことばに不自由しました。

そしてやはり当初は生活が苦しく、今でも子供の靴まで作ったことを思い出しています。

古着の切れはしを利用して、何枚ものりで張り合わせて作ったんですが……。

良かったことといえますか、私の自慢は主人と子供ですね。六人の子は皆いい子ばかりです。

企画広報課長 最後に、三十余年振りに帰られた日本と東白川の第一印象はどうでしたか。

宏子さん 飛行機を降りてすべてが立派で、雪ちゃんともに驚きの連続でした。

そして、明るい照明、立派な家整備された道路テレビなど、一口ではいえませんがすべて驚きばかりです。

村へ入ると、何か箱庭のような感じがして、とまどいました。

でも、多くの人たちに親切にしてください、私は夢にまでみた故郷と、弟の和生に会えて、こんなうれしいことはありません。

企画広報課長 どうも長時間にわたりいろいろなお話を聞かせていただき、ありがとうございます。

生計を維持する者が障害者以外の配偶者か扶養親族で、扶養親族が五人の場合は二百七十三万二千五百円など、生計を維持する者や家族数によって所得制限が異なります。

二 精神または身体に法律で定める程度の障害があり、障害年金や廃疾年金など廃疾を支給事由とする公的年金を支給されていたとき。

三 身体障害者福祉法等による施設などに入所していないとき。

役場では、対象者には個人あて通知をしています。これ以外のかたで福祉手当制度に該当すると思われるかたがありましたら、すぐにも役場の民生課までお問い合わせ下さい。

■ ケーブル近くでの発砲をやめて

狩猟が解禁され、村内外のハンターで山はにぎわっています。が、前年無暴な発砲による有線や電話のケーブルの故障で困っています。

ケーブルの損傷は、なかなか発見できず、まして修理には多額の費用がかかります。

ちよつとした不注意が多のかたのめいわになりますのでハンターの皆さん、今年こそはケーブルや民家の近くでは絶対発砲しないで下さい。

国勢調査の概数

村の人口は三、八三七人

前回調査より六パーセント減少

十月一日現在で全国いっせいに
行われた「昭和五十年国勢調査」
は、村内を二十四名の調査員がく
まなく巡回し、無事に完了しまし
た。

今回の調査は、各家庭が直接調
査票にマークで記入する方法のた
め、汚れたり折れたりしないか心
配されていましたが、皆さんがた

の理解とご協力により調査票回収
もスムーズに行うことができまし
た。
このほど調査結果の概数が発表
されましたのでその一部をお知
れします。

県人口は前回より十萬九千十六
人増加して百八十六萬七千九百七
十人になり、村の人口は前回より



永田四郎 調査部長



警察官歴31年のベテラン

11月6日駐在所へ赴任

この十一月一日付けで県下警
察官の一部異動が発令され、本
村に二年半余り勤務、防犯に交

任ですが、昔、付知町や川上村
にも勤務されたこともあって山
村の実情にも明るく、今後の村
内治安に手腕が期待されていま
す。鮎の友釣り、スポーツ、映画
鑑賞など広い趣味の持ち主です

昭和50年国勢調査結果(概数)

(△は減少)

区 分	昭 和 5 0 年				昭 和 4 5 年				比 較			
	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計
東白川村計	957	1,829	2,008	3,837	969	1,934	2,146	4,080	△	12	△	105
神 土	438	835	941	1,776	442	882	976	1,858	△	4	△	47
越 原	345	675	742	1,417	344	699	783	1,482	△	1	△	24
五 加	174	319	325	644	183	353	387	740	△	9	△	34

二百四十三人減少して三千八百三
十七人と約六割の人口減少になり
ました。
この五年間に二百四十三人の人
口が減り、世帯数も十二世帯減っ
たことにより、過疎化現象が依然

続いていることが挙げられます。
このような結果が出た今回の国
勢調査は、これからの村の将来の
姿や方向を定めるうえで、重要な
問題を含んでいるといえます。
なお、この結果は地方集計によ
る概数であり、後日総理府統計局
で公表される数値と異なる場合も
あります。

できていますか

我家の防火チェック

十一月二十六日から十二月二日
まで、秋季全国火災予防運動が繰
り広げられます。

今年も全国の上半期の出火件数
は三万七千件もあり、火災による
死者は千二百二十二人にも達してい
ます。

それらの実態から、家庭におけ
る火災予防を徹底すれば、火災や
火災による死者が大幅に減ると考
えられています。

そこで、家庭における家族ひと
りひとりの火の元に対する注意心
や、火の取扱ひなどに対する心が
まを強めましょう。

次のようなことを、家族ぐるみ
で話合ってみてください。
一、たばこの投げ捨てと寝たばこ
の防止

二、暖房器具の安全点検
三、ガス器具などのガスもれ点検
及び点火、消火の確認

昭和25年以降の減少率

区 分	減少人口	減少率
昭和 25	1	—
30	69	1.3
35	370	7.3
40	387	8.2
45	258	5.9
50	243	6.0

四、緊急時の通報、連絡体制の整
備

五、保安教育の徹底

一、わが家でできる防火チェック

一、くわえたばこや寝たばこは、
灰皿は安全ですか。

二、老人、子供は安全な場所に寝
かせてありますか、避難口は。

三、ガス洩れ点検と元栓を閉めて
いますか。

四、電気器具の使用後、差込をコ
ンセントから抜いていますか。

五、ストーブの置き場所と給油の
方法は。

六、火災、地震についての心構え
の話し合いは。

七、消火器具の場所と、使用の方
法は。

八、火災の場合、一一九番(有線)
へ知らせる心構えができていま
すか。

選挙法の改正

祝儀や香典も禁止

寄付をねだっても法律違反

「金のかからない明るい選挙」の実現をねらいとした選挙法の改正が、10月14日から施行されました。こんどの改正は選挙公営の拡大や政治活動用の文書図画の掲示の制限のほか、有権者に直接関係のある公職の候補者等の寄付の禁止など次のようなことが内容となっています。



お祭りなどの寄付、お酒など



お葬式の香典、花輪、供花

こんなことも「だめ」

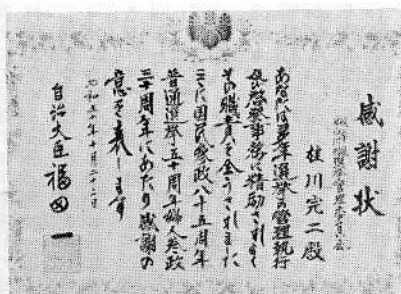
- 衆議院議員の定数の増加
議員一人当たりの有権者の数の不均衡な選挙区の議員定数が一部改められ、議員総定数が二十人増えて五百十一人となり、次の総選挙から適用されます。
- 供託金の引上げ
供託金が各選挙とも約三倍に引き上げられました。
(衆議院議員三十万円が百万円に、村長四万円が十二万円に)
- 選挙運動用ビラの配布
国会議員の選挙に限り、二種類以内の選挙運動用ビラの配布が認められ、配布の方法は、新聞折込み・選挙事務所内・個人演説会の会場・街頭演説会の場所に限られ配布できます。
- 後援団体などの政治活動用看板などの規制

- 後援団体や候補者などが政治活動のために使用する事務所の看板や立板の数が制限されます。
- 候補者などの寄付の禁止
公職の候補者など(議員や長の職にある者やその候補者のことをいう)は関係する選挙区内の者に寄付することは、選挙に関係あるなしにかかわらず、また、時期やいかなる名義を問わず次のようなことがいっさい禁止されます。
ただし、親族(六親等内の血族配偶者、三親等内の姻族)に對しての場合のみよいことになっています。
- 出産・入学・卒業のお祝品やお祝金を贈ること。
- 結婚のお祝金やお祝品を贈ること。
- お中元やお歳暮を贈ること。
- お祭にお金を寄付し、酒などを届けること。
- 葬儀に香典・花輪・供物等を贈ること。
- 老人クラブ・婦人会・消防団等の行事にお金を寄付したり、お酒を届けること。
- 起工式・竣工式に祝儀としてお金を贈ること。

- 以上のような、冠婚葬祭や通常行われていた、いわゆる近所づきあいが今度の選挙法改正で禁止されました。
- また、候補者の寄付の禁止と同時に、有権者の方が候補者などに寄付をねだったりすることも禁止されています。
- こうした改正を機会に「贈らない、もらわない、求めない」運動を村民こそって盛り上げた方がいいものです。

自治大臣から 感謝状

選挙管理委員の桂川さん
村の選挙管理委員として、昭和三十五年に就任以来十五年にわたって努力された桂川完二さん(越原黒瀬)に、このほど自治大臣から感謝状が贈られました。
これは、さる十月二十二日に国民参政八十五周年、普通選挙五十年、婦人参政三十周年記念式典の機会に、それぞれ明るい選挙に尽力した人、功績のあった人に伝達されたものです。



◎たばこは村内で
皆さんが村内でたばこを買われると、たばこ消費税が村税として村へ入ります。できるだけ村内で買われるよう協力下さい。

さる十月二十八日、デンマークオレロップ体操チーム一行三十五名が来村、村の人たちにすばらしい演技をひろうしてくれました。
村にとっては初めての国際スポーツの公演、村あげての歓迎の中で交歓と親善の花を咲かせました。

開いた交歓と親善の花

デンマーク体操チームが演技をひろう

この体操チームが来日したのは十月三日、以来東京・大阪など全国の主要都市で体操の公演と普及に努め、その集団美、健康美などに大きな反響を呼び起こしていました。

そんなチームが、村のような辺地で公演するのはもちろん初めてで、この実現には、同チームと主催者、それに本村出身である名古屋商科大学長の栗本祐一さんらの温い配慮があったからです。

特にデンマーク体操が、同国の自然と農村の中で生まれ、育っただけに、せっかく日本を訪れたのだからぜひ農村を見ながら、農村の人にもひろうしたいという団員たちの願いもあって実現したものです。

そして、名商大が柏本に持つゼミナールハウスで一泊し、その折に公演したということ、東白川に白羽の矢が立ちました。
この話を受けた村でも、願って

もないチャンスを生かすべく、招へい実行委員会を結成し受け入れ体制を整えました。

十月二十七日、名古屋での公演を終えた同チーム一行はバスで出発、念願の田園風景や山なみを眺めながら午後六時半、ゼミナールハウスへ到着しました。

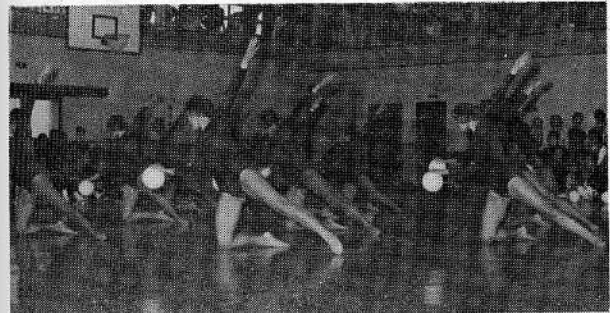
同ハウスでは、午後七時半から大学や村関係者を交えての歓迎レセプションが開かれ、チーム一行は同大学から贈られた浴衣を着て出席しました。

夕食の料理は、ちょうど村では盛りのまつたけやしめじを入れたすき焼きパーティーです。

焼きかたや、食べかたを教える村の人たちも、身ぶり手ぶりですてんてこまいの中にも、やっとなれたはしで「おいしい」を連発しながら、食欲のおう盛などところを見せました。

引き続き、待機していた二十名の村の民謡クラブの皆さんが、郷

土の民謡や踊りのいくつかをひろうし、団員たちも大喜び、さかんにカメラやハミリに収めていたようです。



観客を魅了した体操チームの演技

そのうちに、団員たちもしたいに踊りの輪に解けこみ、郡上節などはすっかりマスター、何回ものアンコールによって予定の時間をはるかにオーバーしたほど、日本での最後の夜を心ゆくまで過ごしました。

翌二十八日、午前九時、会場の東白川体育館は八百名の小中学生や村の人たちでいっぱいの中、あざやかなコスチュームの女子選手と清らかな白のユニホームの男子選手が拍手に迎えられて入場してきました。

開会式には、東白川中学校のブラスバンドが急ぎよ練習したデンマーク国歌と君が代を演奏し、盛り上げに一役買いました。

いよいよ待ちに待った演技の開始、ブロードの髪をなびかせての

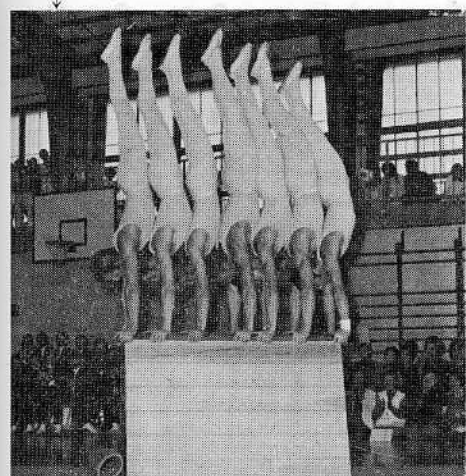
十四人の女子、すばらしい体格と一糸乱れぬチームワークの十六人の男子、軽やかなピアノの音に乗ってあるときは優雅に、ある時は激しく、またウルトラC級の技を交えての演技に拍手も忘れて見とれる人たち……。

特に女子は、種目ごとにコスチュームの色が変わり、ボールや輪を使つての演技はまるで蝶が飛び回るといった感じ、見物者たちを引きこんでしまうようでした。

演技の最後は、男女ともきれいなデンマークの民族衣装を着ての、軽快なフォークダンスもひろう、夢を見ているようなふんいきの中で公演は終わりました。

最後に、チームと見学者全員で「サクラ」を大合唱、体操チームにとっても、村の人たちにとっても忘れえぬひとときの幕を閉じました。

会場を去る選手たち、見送る村の人たち、国や言葉の違いを越えた笑顔と握手が続く、「ありがとう」「サシキュー」で語り尽くせぬ交歓は、最後の最後まで盛りあがりを見せていました。





ぼくのお父さん

神土小2年 今井 誠

一神土平今井邦光さん長男

ぼくは、お父さんは、スポーツがすきです。
ときどき、キャッチボールや、マラソンに、つれてくれます。
だから、お父さんがすきです。

第3回村民運動会

競技応援に大にぎわい

家族づれなど2,000人が参加

ことしも快晴に恵まれた十一月二日、第三回村民運動会が盛大に行われました。
村中のお年寄りから幼児までが一堂に集まり、スポーツを楽しみながら仲間づくりを、ひいては明るい村づくりを目指そうと村が主催し、村内各種団体の応援と協力を得て開いたものです。
三回目ともなると村民生活の中にすっかり定着し、朝早くから弁当や敷物を持った家族づれが詰めかけ、開会式の始まるころにはおよそ二千人が集まりました。
午前八時十五分、神土平の西と東を境に分けた紅白チームの選手団が、中学校ブラスバンドの演奏する行進曲に乗って堂々の入場行進、全選手、役員が整列していよいよ開会式が始まりました。
昨年同点優勝の紅白チームから

の優勝旗の返還、村長や来賓の激励の言葉の後、参加した全選手を代表して松岡良典君（越原日向）が力強く宣誓、競技や演技の幕が切って落とされました。
種目は、午前と午後に分けて二十九種目、おなじみの綱引きやリレー、趣向を凝らした障害競争など競技の熱戦の中に、保育園児や中学生女子のマスゲームなどが入り、選手や応援団からさかんな拍手がおくられていました。
また、第二回から取り入れられたマラソン競争には、一般、青年中学生、女子のそれぞれの部門合わせて二百名が参加、そのほとんどの人が完走し係を驚かせました。もう一つの目玉ともいえるべき催物の仮装行列には十四組が参加、昨年以上回る趣向を凝らした行列が続き、運動場をつぱい爆笑と拍手

手のうすが巻き起こりました。
今年の特徴は、昨年より大人数のグループ、チームの参加が多くこの仮装行列も運動会にはなくてはならない種目として定着してきたようです。
これにあわせて、消防第一分団の有志による昔懐かしい操法がひろうされ、きびきびとした動作にさかんな拍手がおくられ、運動会の盛り上げに一役買ってくれました。

三十日に卓球大会

今年のスポーツ行事の最後

今年度のスポーツ行事最後の大会に、この十一月三十日東白川体育館において第六回村民親睦卓球大会が計画されています。

村では、スポーツを通じて村民の融和を図り、健康で明るい村作りを進めています。この村民親睦卓球大会に一人でも多く参加し日ごろの腕をためて下さい。
団体戦の申込みは、各地区の代表者がチームを編成しますが、一チーム一般男子二人、一般女子二人、三十五歳以上一人の五人で編成することになっています。
個人戦は、一般男子の部、女子の部、三十五歳以上の部に分けて申込みは、当日会場で受付けますのでどなたでも参加できます。
この卓球競技は少人数でも練習

力いっぱい走り、ころび、笑い叫んだ運動会も午後三時には全種目を終わり、選手層の厚さを誇った白組が優勝、村長から晴れの優勝旗が白組に授与され、それぞれの競技種目の表彰も行われました。
こうして幕を閉じたこの運動会は、幸い心配された人が人もなく家族の和、村の和をより強くするために、大きな意義があったといえましょう。

できることから年々参加者が多くなっていますが、練習場所のない地区は、現在中学校のホールと体育館で練習を行っていますので教育委員会へ連絡のうえおいで下さい。

上位入賞を期待

十二月七日に加茂駅伝

十二月七日、八百津町を出発して美濃加茂市までの二〇・八歳を六区間に分けて走る第十一回加茂駅伝大会が開かれ、東白川からも一チーム出場するため、現在、選手が毎晩練習をしています。
昨年度は本村から二チームが参加し、五位と八位に入賞していますので今年度はそれ以上の上位入賞が期待されています。

県下の死亡者は百八十五人

交通事故の発生は最悪ペース

県下で発生した今年の交通事故は十一月十五日現在で六千百十八件ありそのうち死亡者は百八十五人に達しました。
死亡事故者の対前年増加数は全国のワースト・ワンという不名誉な状態が続いています。
このうち加茂署管内の事故件数

は三百五十一件、死亡者二十二人と相変わらず多く発生しています。
今年の死亡事故の特徴は、レジャーによる事故、最高速度違反、過労運転などが主なもので、運転者が今一度慎重にハンドルを握っていたら事故を未然に防ぐことができたとも考えられます。

「安全な速度で走る運動」を思い起こして、これから事故が多発する年末にかけて、各職場や家庭で事故防止について話し合い推進されるようお願いいたします。

来年一月一日から

自動車安全運転センター発足

来年一月一日から「自動車安全運転センター」が発足し、次のような業務を行います。

■交通事故証明書の発行

来年一月一日からは警察署では

なく、同センター岐阜県事務所が発行します。

申請手続きは、申請書に手数料を添えて郵便振替か、センター事務所へ直接申し込む、申請書は警察署、派出所、駐在所にあります

■運転経歴証明書の発行

無事故、無違反の証明書や、現在の点数の証明書も、事故証明書と同様発行します。

■免許停止直前の点数通知

運転免許の停止処分の直前の点数になったかたに郵便で通知します。(詳細は駐在所まで)

交通安全一人間だれもが願っていることなのに、毎日のように交通事故を見聞する私達。

私の幼ない頃親類の人が交通事故で亡くなりました。

まわりの人の暗い悲しみの表情から私も子供心に「死」がわかったような覚えがあります。

でも事故の恐ろしさなどはたぶん考えもしなかったでしょう。

それから今まで事故を見聞し、その恐ろしさを感じるとき、幼ない頃の記憶がよみがえりなんとも言えぬ気持になります。

遠くで起きた他人の事故に身ぶるいた私でしたが、最近になってテレビ・新聞などで事故を知ら



されてもあまり興味を示さなくなつたように思います。

私以外の人の中にも、事故を知つても「なんだ、またこんなことか」と考える人がいるのではないだろうか、私自身の気持が変り、世の中がこも変化していくことはもつと恐

ぞつとする思いです。

そんなおぞましい事故をなくするにはどうしたらいいか、このことをどれほど多くの人々が考えてきたことでしょう。テレビ・新聞などでPRし、ポスターで呼びかけしかし、あまり効果は表われないなぜか？

人々がPRを知らないからでもないし見て見ぬふりをしているはずもない、きつと自覚がたりないせいだと思ふ。

交通安全はまず自覚から

東白川中 三年 田 口 弥 生

ろしいと思う。

交通事故が日常茶飯事になりすぎてこのようになっていくのだから、事故が全くのありふれたものになったら、考えるだけでも

「自覚」と単に二字で言つてしまつてもその中には深い意味があり、私も今まで、幾度もその意味について考えました。

この場合の自覚とは、事故を起

こさないよう心がけ、細心の注意を払うことにあると思われまふ。標語をつくつてよく目につく所に掲げるのも大切でしょう。

口うるさいくらいにPRも大切でしょう。

しかし、いくら対策を物で表わしても人々の心が動かなくつては全くの無駄になります。

一番大切なのは心の動き、つまり「自覚」だと思ふ。

私はこれから、この自覚を大切にしていきたい。そして多くの人々に交通安全を呼びかけて、交通事故が日常茶飯事にならないように努めたい。事故のたびに人々が身ぶるいし心を動かし、再び同じあやまちを繰り返さないように努力すれば、交通安全の願いもかなえられると私は確信しています。そして、一日も早くその日の来ることを願っています。



「がん」は早期発見を

村の今年の一月から九月までの死亡者のうち、がんによる死亡は全体の三〇割です。

その内訳は、胃がんが六四割、子宮がんが一八割、その他のがんが一八割です。

早期発見が案外可能な胃がん、子宮がんでの死亡が高いことが目立ちます。

がんは早期に発見し治療すれば完治も不可能ではないものもあり特に子宮がんは完治します。

村でも五・六年前から、胃がんと子宮がんの集団検診を行つています。このような機会を利用し、早期発見に努めて下さい。

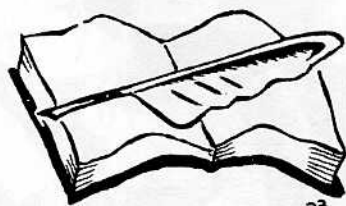
■がんの早期発見十カ条

一、原因がよく分らなく痛みもないのにやせて顔色が悪くなつて貧血ぎみになる。(すべてのがん)

二、慣性的に胃腸の調子が悪かったり、食欲が衰えたりする。

(胃がん)
三、おりものが多くなつたり、血がまじつたり、食欲が衰えたりする。(子宮がん)

村誌こぼれ話



— 編さん室だより

境谷山論 追われた先祖を訪ね来村

十月の始めのある日 珍しいお客様が編さん室においでになった。案内してくれた役場の人も大きな男だったが、それにもまして大入道を思わせる当年七十二歳の偉丈夫である。

「始めて来ました。古い先祖のお墓まいりがしたくてね。坂下までは時々来ましたが、東白川は始めてです。」

(遠い昔の、先祖の墓を訪ねてはるばる岡崎から来たといわれます)

聞けば先祖は享保山論事件で、坂下へ地替(強制移住)を申し付けられた由兵衛である。

由兵衛といえは、本紙九月号で紹介したように、享保十年(一七二五)の春、神土村東組と平組とが山論を起したとき、東組頭清右衛門の片腕であった神付五人組頭(組長)の由兵衛である。

そして同年六月末の第一回訴訟に敗れ、七月五日付で坂下村平四郎清六郎兩人跡へ、地替を申し付けられた。

ちなみに、この判決によって処分をうけた者は、次のよう東組全員五十六名に及んだ。

組頭 清右エ門

神付五人組頭 由兵衛

坂下村へ地替 中通五人組頭

善助

……過料三貫文 黒岩五人組頭

……過料四百文 神付 小右エ門

……越原村へ地替 神付 佐左エ門

……過料五貫文

……文六郎

……過料五貫文 西組 銀八郎

……過料二貫文 其の他東組全員

……過料三百文 坂下へ地替に

あつた由兵衛は、それからどんなように暮らしたのだろうか。お客様の取組された『今井家之来歴』を拜見すると、

①行先は、恵那郡坂下村外洞の一番奥地で、『松』とよばれる所であつた。

②その頃、そこは戸数八戸であつたが昭和十五年現在には、開拓

されて百戸ほどになっている。

③『松』の家の蔵の中には、医師用薬だんすがあつて、神土に住んでいた先祖は医師をしていたと代々言伝える。

④山論で追放になった十七軒のうち、八戸は大明神に移り住んだ

⑤由兵衛からは、ずっと坂下に住みつき、明治末年になつて九代目が名古屋に籍をうつし、現在

妙達信女之霊	享保二年五月五日
以上元名松原郡東白川村植田今井理治氏所有地ニ埋葬シテリ	
一峯玄秀信士之霊	享保二年五月五日
俗名 由兵衛	此墓は松原郡東白川村植田今井理治氏所有地ニ埋葬シテリ
桂水素信女之霊	延享元年八月一日

今井さんが持参された
今井家之来歴の一部

は岡崎市に住んでいる。

「坂下へは何度も出かけて、先祖の墓まいりをしてきたが、由兵衛以前の墓がこの東白川にあると書かれているので一度訪ねてみた

いいつも思っていました」

「私は、もう七十二歳、来られるうちにと思いたち、生れて始めてやつと来ました。遠いですね。でも、先祖のことがよくわかっていい供養になりました」

とおっしゃる今井英一さんのことばに、筆者は遠い昔の村の農民に、はるかな思いをはせる。

封建時代といわれる江戸時代、封建思想といわれる思想、思想は社会通念としてはわかりやすい形だが、思想とは観念の形態で中味は空っぽだ。歴史家の提供する「封建的なもの」という図式の中には、生きたわれわれの先祖は浮び上つてはこないのではないだろうか。

不合理の中で、ただ黙々と処した村の先祖たち、だが重圧に耐えきれなくなつて、一たび立ちあがつたときの、その貫き方には、現代の知識人、教養人といわれる人達には、とくに失われてしまつたであろう責任感と自信とがあつたのではなからうか。

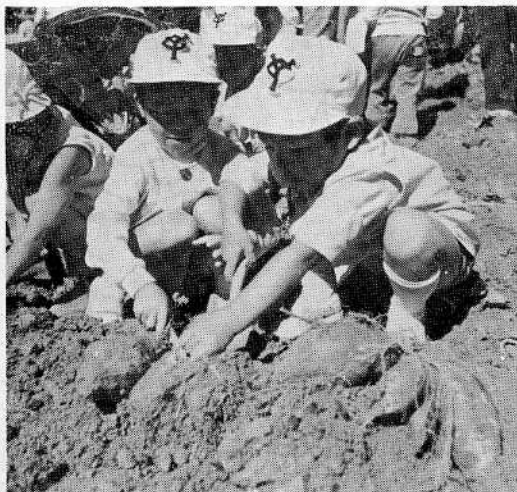
神付へ墓参に出かけられる今井さんに、由兵衛の墓の写真はないでしようかと所望した。そのうちに一枚撮して送りましたよといわれた写真は、まだとどかない。

神土村庄屋文書史料
目録を発行

ご希望のかたは早めに企画広報課まで連絡下さい。

暮らしと健康

- 四、乳房にいつまでもしこりが残っている。(乳がん)
 - 五、咳が長く続いたり、痰に血まじじつたりする。(肺がん)
 - 六、口の中や、皮膚にいつまでも残っている潰瘍がある。(舌がん・皮膚がん)
 - 七、歯がかすれたままで、なかなか治らないとき。(喉頭がん)
 - 八、便が不規則になつたり、血がまじつたりする。(大腸・直腸がん)
 - 九、尿に血がまじつたり、尿の出が悪くなる。(じんぞうがん・ぼうこうがん・前立腺がん)
 - 十、ものを飲み込むときに、つかえるような気がする。(食道がん)
- がんにならない生活の工夫
- 一、たばこの吸いすぎをやめる。(肺がん・喉頭がん・ぼうこうがん・気管支炎・心臓病などの予防)
 - 二、酒の飲みすぎをやめる。(食道がん・肝臓病・胃潰瘍・脳出血・心臓病などの予防)
 - 三、塩からいものの食べすぎをやめ、牛乳を十分飲む。(胃がん・胃潰瘍・胃炎・高血圧・じんぞう病の予防)
 - 四、熱すぎる食物を警戒する。(食道炎・食道がんの予防)
- 以上のようなことに注意し、予防・早期発見に自分で気をつけて下さい。



良い子たちが 芋掘り体験

10月のある日、神戸保育園の良い子とお母さんたちが、さつまいも掘りを行いました。

これは6月15日に皆さんで植えたもの(182号のこの欄で紹介)で、そっと土をかきわけると大きな芋がごろごろ付いていて、親子揃って収穫の喜びを味わいました。

一般農家でも少なくなったさつまいもの栽培を自分たちで体験した良い子たちにとって、大きな思い出となることでしょう。

——目を輝かせ芋を掘るよい子

少い時間をたいせいに

ふるさとへの便り



集団生活の難しさ痛感

東白川村役場、企画広報課の皆さん「広報ひがししらかわ」をありがとうございます。

岐阜市に来て六ヶ月目にはいっています。

私は紡績にきています。学校と仕事を一度にやらなければなりません。後番は八時から学校に行き四時間授業、帰ると仕事が終わっている日は、一時三十分から休憩をいれて十時まで、ほんとうに時間が短かく、仕事で失敗して、先輩

しかし、いざ来てみると先輩たちとの集団生活のむずかしさ。自分のしたいことをできなくて一日一日、寂しくくらししているの

はよくないと思います、生活の中に楽しくすごすことができる何かを、これから少しずつつみつけ、少ない時間をたつせつにしていきたいと思ひ、生活プラン表をつくり、時間をしょうずにつかえるようにと考えています。

家にいたときの私は、いやなことがあると両親にやつあたりしてました。でも今は、やつあたりする人がなくこらえています。一番いやなことは、ごきぶりの

早番は四時三十分起き、五時から休憩をいれて一時三十分まで仕事、そして学校です。

これから四年間、苦しくてやめてしまいかもしれない。でも、できることなら最後までがんばりたいと思います。

ふるさとに帰ることが楽しみの一つです。

あまりまとまりのない文章でしたがこれからも、苦しいことにまけないで先輩を見習ひ、社会人と

してがんばっていきたいと思います。

岐阜市正木町古川一八八〇

安江里美



あなたの作品をお寄せ下さい

- ・初心者、特に若い人達の投稿を歓迎します。
- ・毎月月末までに神戸田口良三宛に出して下さい。

すすり泣くうから等を背に葬祭ののりと読み切る情に負けしと

下る鮎湖に追ひ込む火の燃えて網張る人の顔緒く浮く

名も知らぬ鳥の群れるて秋の日に白くかがやく諏訪の湖

裏山の霧の晴れゆく樅の木に秋もゆたき百舌鳥の声呀ゆ

お彼岸には遊びに行くよと娘の便り布団を干して吾は待ち居り

麻酔薬さめし眼のおぼろげに間近に見るは妻の笑顔か

鈴虫の啼き澄む庭の片すみに去りにし子等のからの虫籠

除草剤一石八斗撒布して雑草地獄しばし忘れむか

一年前に友にもらひし山百合が咲きしことにも亡き母を偲ぶ

もくせいのはのかに匂ふ秋の夜は灯も明るくて部屋静まれり

しじみ蝶の羽のみ残し女郎蜘蛛が静かに居りぬ網の真中に

蛇の背に幹を叩けば鬼皮ががばりと落ちぬ枯れたる松は

田口良三